

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400976		
法人名	有限会社 マザーズ		
事業所名	グループホーム円頓寺		
所在地	名古屋市西区那古野2丁目12番5号		
自己評価作成日	平成25年12月4日	評価結果市町村受理日	平成26年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&jigyouvoCd=2370400976-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成25年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

商店街の中にあるという立地条件を活かし買い物や、散歩、喫茶店、商店街でのイベントにも引き続き積極的に参加し、毎日の生活の中で地域の方々との関わりを深めております。今年は、いつも招待して下さる幼稚園へ御礼状を書き住人さんと共に幼稚園へ届けるなど、日頃の感謝と共に今までの関係が継続できよりよい関係性へ発展していく思いを込めはじめました。また、今年は生活支援をテーマに毎日の生活の見直しをはかりました。地域へで職員だけがあいさつする関係ではなく、住人さんと地域の方たちとのパイプになるよう努めております。またそれが、目で見てわかりやすく結果にでやすいようカレンダーに記入し会議の場にて発表をしております。前年同様、ごえん市も継続しております。また、住人さんが中心となった食事作り、買い出しが生活の一部となっております。今年は地域の方からの声をもとに本館主催の「地域会」を行い、今まで関係性の薄かった専門学校と関係を築く一歩になりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念とは別に、今年度の目標として、「地域に感謝したい」という内容を掲げ、地域に還元する取り組みを一歩ずつ進めている。運営推進会議の場で、「地域が集まる場所が欲しい」との声があった。これを受けて、近隣にある同法人事業所共有スペースを使った取り組みを進めた。
地域の美容専門学校に声をかけ、地域交流会の場でネイル体験やフリーマーケットを開催した。新たな交友関係の発展を期待できる取り組みとなり、成功を収めている。
運営推進会議の幅を広げて、隣の商店街の呼び込みや新しい会議メンバーの構築などの可能性も広がるであろう。今後の発展を期待したい。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人生たのしく自分らしく」の理念のもと、その人らしく過ごせるようなケアプランに反映しスタッフで共有、実践している。また月1回行う面談にて職員と話をする機会を設け理念にそった関わりが出来るように努めている。	理念とは別に、今年度の目標として「地域に感謝する機会を作りたい」を掲げて取り組んでいる。フリーマーケットや、近隣の美容専門学校と協力してブースを作り、交流の機会が実現した。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	商店街が生活の場となっている為、買い物や散歩、地域の方と日常的に交流がある。商店街ではアイドルのような存在になっている住人さんもあり、あいさつの際はよく「元氣がもらえる」と握手をする姿も多くある。	買い物や散歩など、ホームが立地する商店街が生活の中心になっている。商店街のイベントにホームも参加して、商店街の活性化に貢献している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	商店街内のお宮掃除を通して地域貢献に努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域に住む一員として出来る事はないか話し合い、提案・相談・報告・共有を会議内で話し合っている。今年は地域の方からの声をもとに地域会を開催する事が出来た。	商店街の店主が運営推進会議に参加して、地域情報の提供がある。商店街のイベントの打ち合わせを推進会議の中で行っている。参加メンバーの定着はあるものの、新たなメンバーの発掘には至っていない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方との連携、その他の高齢福祉にかかわる事など相談・連絡している。	地域包括支援センターが主催の認知症サポーター養成講座に参加して、認知症の地域理解に向けた取り組みを進めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	普段から玄関や窓の施錠は開いており、利用者及び家族や地域の方が自由に出入りできるように努めている。また、スタッフ全員が身体拘束しない事についての理解は出来ている。	狭小住宅のため、ホーム内のスペースが限定されている。これにより、利用者の活動区域が屋外へと広がり、自由な生活が可能になっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外での研修や勉強会。ユニット会議等で「虐待」とは何かを理解し、日常的に注意している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外での研修や勉強会。ユニット会議等で学ぶ機会をもち活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には管理者及び、会社代表者が同席し、十分な説明と理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から日常的に意見や要望を吸い上げ、運営に反映できるよう努めている。	毎月のホーム便りで、利用者の状態やホームの様子を家族に伝えている。家族アンケートから、「地域と関わりを持ち地域行事に参加している」など、応援の声が寄せられている。	「介護度が上がり、できないことが増えてきて、心配だ」との声があった。家族の心理的な負担軽減のために、家族会の場や面談など、個別に家族の相談を聞く機会がほしい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務の中でスタッフからの意見や提案を聞き、計画・実行へと移している。特に外出行事はスタッフがよりそって引き出してきた案を実行している。	職員間で会議を開き、行事のことなどを話し合っている。ホームで集約した意見を法人の管理者会議に提案し、法人本部から助言を受けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	QOMという独自の評価シートを作成し自己の目標設定、勤務状況などを把握。また毎月管理者とスタッフで個別面談を行っている。その後法人と面談を行い、個々のスタッフを見つめる機会をもっている。(年2回)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ1人1人の得意分野や必要な知識を把握し、研修を受講しやすい機会を作り提案している。また研修に参加したスタッフには会議の場で発表をしてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1度、地域のグループホームと一緒に研修をする機会を設け事例検討や外部講師の件主を実施している。また、外部研修での情報や参加機会を設けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を使用してのアセスメントを行い、本人の状況を把握する。また、安心が確保できる声かけや日々の支援、事業所内の環境設定を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の状態を把握するとともに、家族の意向や不安にも耳を傾けて環境づくりに努めている。電話や来設された際には、話やすい会話づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった時点で、どのサービスが適しているのかを見極め必要があれば法人と相談をしのそ方にあったサービスを提案する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは本人の環境となるよう努め「見守り」や「共に行う」事を重視している、また、利用者本位の生活が営めるよう黒子に徹するよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意向や関係を尊重し、家族のきずなが保たれるような支援を行っていく。イベントや行事に家族や友人の参加も出来るようお誘いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホーム入所後も、なじみの人や場所に出向き、関係が途切れないように努めている。また遠い親戚や友人には、写真付きのお便りを出すことで関係が途切れないよう支援している。	自宅近所の市に出かけ、友人や近隣の方と再会した事例がある。近所から引っ越した利用者は、職員の付き添いを得て、徒歩で自宅の場所まで散歩している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが利用者同士の会話をつなぐことで関わり合いをもち、ここの関係がよいものであるよう努めている。「利用者同士」を基本とし常にスタッフはどこまで関わっていくかを話あっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	直接電話した相談があった際には、状況にあったサービスを提案するよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひもときシートを使用する事で、本人の思いや希望を引き出しスタッフ全員が本人の思いに沿った支援が出来るよう努めている。またチームワークにつながるよう努めている。また、記録には本人の言葉を多く残すよう努めている。	介護記録の「本人様子」欄は、具体的な内容を記録している。職員の気づきの欄があるものの、具体的な記述は少ない。アセスメントはひもときシートを活用して、職員が発言した内容をまとめて記録している。	職員の気づき欄を具体的に記録し、日々の支援の中で共有できる取り組みを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やキーパーソンだけでなく、本人に関わる方々から情報収集する事で今までの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のD-1,D-21を使用する事で、本人の現状把握に努めている。また日々の中で得た情報を支援経過記録やケア日誌に記入している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、スタッフ、主治医や地域関係者など関わるすべての人と、カンファレンスを通し話あいケアプランへ繋げている。	介護計画であるライフサポートプランは具体化されてきており、仕組みは定着しつつある。プランにある「以前の暮らし方」については、情報収集しているものの明確になっていない。	共有した情報をモニタリングで話し合う機会があれば、さらに深掘りした検討へとつながるであろう。今後の取り組みを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	意味のあるケア日誌が必要な為、記入方法や件主を通して、再確認しさらに、ユニット会議や個別の面談の際に振り返る事を行う。またケア日誌を元に申し送る事で、叙帆うの共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフや家族の気づき、本人の状態変化やニーズを把握し必要に応じてサービス内容のみなおしを行っている。また固定観念にとらわれないよう多面的な角度を意識して支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	円頓寺商店街を中心として、日常的に情報を収集し利用者本人から地域との関わりが持てるような声かけや、環境づくりに努めている。また事業所として地域に貢献できないか検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診にて心身の状況を診察して頂き日常的に電話にて連絡・相談を行っている。また、専門的な検査や治療が必要な場合は往診医紹介のもと他の医療金への診察も行っている。	協力医の往診が定期的により、提携薬局による薬の管理が実施されている。往診後の家族への報告は、月に1度のホーム便りと合わせて報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、看護師が出勤し、報告・連絡・相談を行い連携を図っている。また必要であれば往診先の看護師が処置など行う場合もある。また、転倒や発熱等があった際にはすぐに訪問看護と連絡が取れる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	スタッフが家族と共に医療関係者と連絡・相談を行う事で安心して治療出来るよう努めている。また入院中の衣類洗濯や病院との情報交換も家族と協力して行う事で家族側の安心にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りに関しての意向を本人家族と共に書面で確認し、事業所で出来る範囲を十分に説明する。また終末期を迎えた際は、再度意向の確認、医療や地域との連携を図り、本人や家族の医師に添えるよう努めていく。	利用者・家族の意向を第一に考えて、終末期の選択ができるように取り組んでいる。入居時に、終末期についての法人の方針と、家族の意向を話し合っているものの、その後の聞き取り・説明実績はない。	家族の不安を払拭するためにも、定期的な聞き取りや終末期の方針を共有できる支援を望みたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応方法や連絡の手順、事故発生時の初期対応と手順については、日常的に確認し必要があれば見直しを図っている。また急変時、事故後は振り返りを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練、日長物品の確保、水害時の土嚢や土嚢に代わるものの把握等会議や件主を通して周知している。地域とは地域運営推進会議を通じて避難場所の確認や災害の恐れの場合などの共有を行っている。	ホームの周辺地域は、水害が多い地域であるため、日頃から対策を図っている。土嚢の準備や、法人内の連絡協力を強化している。	商店街や学区の災害対策の内容を収集して、ホームに必要な支援や還元できる内容を収集する取り組みを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	損益の念を忘れず、かつ親しみや安らぎがある言葉かけ会話を意識して取り組んでいる。また外出する際はプライバシーが保てるような言葉かけや会話に努めている。	排泄の際には、声かけに気をつけた配慮がある。居間には死角がなく、すべて見渡すことができる配置になっている。利用者は一人になりたいとき、居室に戻ってくつろいでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の献立や買い物、外出などの本人の思いが引き出せる日常的な会話の中で引き出せるよう努めている。また利用者が選択できるよう提案もしていく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	動き出しはスタッフではなく、日々の利用者から発せられる言葉や行動を大切に1人1人のペースを尊敬している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や髪形などスタッフと一緒に考えておしゃれをし、他の利用者からも言葉をかけてもらう事で喜びや楽しみになるよう支援している。また利用者同士で髪を乾かしたり、くしでとかす姿もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	夕食は1人の利用者が中心となって献立をきめ、他の利用者と協力し作り上げている。「おいしいもん作るけん」「何が好きか？」等利用者同士の会話も生まれている。食器の片付け等利用者同士で分担して行っている。	利用者が主体となって食事を作っており、料理が利用者自身の生きがいになっている事例がある。自分の食べたい物を、商店街で自由に購入して楽しむことができる。	栄養面や体調面を考慮して、時には職員が味見や副菜を加えるなど、柔軟な支援に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事形態や食器での提供。必要に応じて食事量や水分量を記録し主治医との連携も図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせた場所で口腔ケアを行っている。また必要があれば歯科に通い口腔ケアの指導を受け支援に反映している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケア日誌に日々の排泄状況を記録し定期的振り返る事で、個々の排泄パターンを把握している。また日中夜間でも個々の排泄方法に合わせた支援を行っている。	椅子を動かしたときや口瘡など、利用者本人が発する合図を観察してトイレ誘導している。自発的な排泄を支援するため、過度なトイレ誘導は避けて見守る支援がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	買い物、掃除、洗濯、散歩など生活の中に「動き」を取り入れたり飲み物や、おやつ等を工夫する事で便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番は決めずに、その日の個々の状態に合わせて声かけや支援を行う。また利用者同士で誘いあって乳四くうされる事もあるので、状況に応じて支援している。	入浴日を設けて、希望者から順に入浴している。本人の表情や気分を見て声かけをし、入浴できない時には、清拭・陰部洗浄をして清潔に配慮した支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間は固定せず、テレビや会話を楽しみたいときは遅くまで楽しんでいただき朝ゆっくりおきたい時には寝る事が出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師より薬剤情報をもらい都度確認している。服薬方法は個々に違うので見守り、支援などその方に合わせて行っている。また薬を渡す際は、何の薬かを伝える事で安心を促している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過ごす時間が多いリビングが利用者・スタッフが触れ合える広さであり自然と生まれる笑いや会話を大切にしている。また、利用者同士での役割を尊重し利用者発信の楽しみや提案をスタッフが支援していきいきに繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎朝モーニングに行きたい利用者と他の利用者を変えて近所の喫茶店に行くことが週間になっている。また、広告をみて「ここにいこう」となれば出かけ、「これが食べたい」「みたい」となれば実現できるよう努めている。また、カラオケ好きの方は近くのカラオケ喫茶へ出かけたり、他の館がカラオケマイクを持っているので、およばれす事もある。	本人の要望に応じて、自由度の高い外出支援をしている。図書館や輸入食材の店など、個々に出かけたい場所へ支援している。法人内で将棋やマージャンの会を開いており、法人内の他事業所の利用者と交流する機会がある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人にお金を所持して頂き、本人に使用する目的を決めてもらっている。所持が難しい場合でも支払い時は本人が行って頂けるよう支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月に1度、または、お手紙を頂いた際など定期的に写真入りの手紙を家族や友人に送付している。電話の制限もなく希望したり必要時には行っている。また本館新聞を作成し事業所での出来事をお知らせしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられるような環境づくりや会話、植物や果物をテーブルに置くなどして雰囲気作りに努めている。また居室内は個々に合わせた温度設定や明るさにしている。	狭小ながらも、利用者が自発的な活動ができるような工夫がある。台所の食器棚やベランダの洗濯台など、利用者の使いやすい高さに合わせて設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは決して広くはないですが、部分的に活用して触れ合った距離感での会話を楽しんだり、各階に移動して作業や会話をしたりと利用者の雰囲気や関係に応じて工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好きな有名人の写真や、動物のぬいぐるみ、衣類の場所や物の配置、以前から使用していた筆筒や衣装ケースなどの個々の思いが反映されるようまた居心地よく過ごせるよう工夫している。	自分の部屋を暮らしやすい空間にするため、自分で工夫している事例がある。タンスを机に活用して、本を読んだり調べごとをしたりと、自分の時間を大切にしている利用者がいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーターではなく階段を利用したい方はスタッフ見守りの元上り下りを行い、包丁を利用して果物を切りたい方もその方の状況を把握して使用して頂いています。初めから止めるのではなく、出来る可能性を探って支援に活かしています。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム円頓寺

目標達成計画

作成日: 平成26年3月10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成 に要する期 間
1	23	記録の気づき欄の活用方法	記録の気づき欄の充実	記録を振り返る習慣をつける。また会議の時間を活用し新しく発見したこと工夫等を共有し記録へ残す意識付け	毎月
2	35	災害時の情報不足	地域運営推進会議にて情報収集、また災害時ホームで役に立てること、地域の望みの確認	議題に定期的に災害を加える	2ヶ月1回
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。